

第72回「社会を明るくする運動」 調布市意見発表会 意見発表文

学校名	調布市立第五中学校
代表者氏名	吉田 朱希（よしだ あやね）
学年	3年
題名	孤独が及ぼすもの
本文	
<p>「学生が、特殊詐欺の疑いで逮捕されました。」</p> <p>最近、報道番組を見ていると、このような未成年者による犯罪が増えているように感じる。しかし、身近な事では無いと思ったため、全国で検挙された少年の人数は五千人くらいだと推測していた。実際に調べてみると、驚くことに一年間で約二万人もの少年が検挙、補導されていることがわかった。</p> <p>私はふと、「なぜ周りの人が気づいて、止めることができなかったのだろう。家族などは、子供が不審な素振りを見せたら押しとどめるべきではないのか。」と思った。</p> <p>ここでもう一度、社会を明るくする運動の作文の募集案内を読み直してみた。すると、『犯罪や非行をした人たちの中には、その背景に、虐待、貧困、ホームレス、学習機会の不足、高齢・障害、依存など様々な「生きづらさ」を抱えている人たちが少なくありません。』という部分が目に止まった。</p> <p>罪を犯してしまった未成年者の背景について、詳しく調べてみた。犯罪に</p>	

ついでに資料である犯罪者白書を見てみると、少年院入院者の被虐待経験率は男子が四割、女子が六割。合点がいった。もし、自分が虐待を受けていたら、勘定のコントロールが出来なくなり、かっとなって他人を攻撃してしまうかもしれない。日々罵られることで生まれるストレスを、社会に対してぶつけてしまうかもしれない。だが、道を踏み外してしまっても、家族は止めてくれない。そればかりか、信頼し、守ってもらいたい親から暴力を振るわれ、心に大きな傷を負ってしまう。そんな状況は孤独だと思う。

ユニセフの調査によると、「自分は孤独だと感じる。」と答えた子供の数は、先進国の中で日本が一番多い。しかも、一位の日本は約三割、二位のアイスランドは約一割で、大きな差がついている。この問題を解決することが少年の犯罪や非行を防ぐために重要だと思う。

これを解消するために、自分にできることは三つあると思う。孤独を感じている人は、自分を表現することが苦手だと聞いたことがある。だが、無理に変えることは難しい。だから、こちらから話しかけ、信頼関係を作っていくことが必要だと考えた。互いを信頼し合うことで、悩みを打ち明けられるようになり、孤独感や疎外感を少しずつでも解消していけると思う。

二つ目は、信頼関係を築いていく中で、感謝を積極的に伝えることだ。私は友人や家族などの周りの人に「ありがとう」と言われると、自然と笑顔になり、より相手の事を大切にしたいと感じる。感謝を伝えた方は「自分も困

っている人を見たら助けてみよう」と思うようになり、優しく明るい社会の輪を繋げていける。

三つめは、挨拶を多くの人とすることだ。私は学校の生徒会に入っている。そこで行う活動の中に「挨拶運動」というものがある。朝、校門や昇降口に立って、登校してくる生徒の方々に挨拶をするというものだ。挨拶を返してもらえると、とてもうれしい気持ちになり、やって良かったと思える。

挨拶には、自分から心を開いて、相手に近づくという意味がある。この意味のように、コミュニケーションをとるきっかけになるだけでなく、相手の存在を認めていることを強力に表せる。人は自分の存在を肯定されることで、自我を確立させる生物。いじめで一番精神的ダメージが大きいのは無視と言われていくらいだ。だから、お互いに挨拶をすることはとても多くの利点がある。

私は生まれながらに邪悪な心を持った人はいないと思う。もちろん犯罪は悪いことで、多くの人を傷つけてしまうことであり、罪を犯した本人の責任でもある。だが、本当にその人だけが悪いのだろうか。再犯者についても同じ事が言える。刑務所や少年院を出たとき、再犯をするつもりは微塵もなかった人が、再び罪を犯してしまう原因はその人だけにあるのだろうか。

その答えは「違う」と私は思う。先ほど述べたように、家庭環境に問題がある場合が多い。また、それだけでなく、現代の社会にも原因はないか。

いくら支援制度があったとしても、犯罪歴が就職に及ぼす影響は大きい。このように、社会には犯罪者へ冷たい視線を向ける人が多い。

社会を明るくする運動の作文を書く以前の自分も、彼らを白い目で見えてしまっていたと思う。もし、自分の近くに少年院を退院した方がいたら、なるべく関わることを避けてしまっていただろう。私は相手の気持ちを考えていなかった。だが、今その行動が彼らを苦しませ、再犯へと導いてしまっているのだと気づくことが出来た。だから、今後はこれらの事に気を付けていこうと思う。

まずは、誰に対しても偏見を持たずに接することだ。少年院や刑務所を出て、再出発をしようとしている人を、過去に罪を犯したからといって避けることは、相手を深く傷つけてしまう。いじめにつながってしまうこともあるだろう。

もう一つは、過ちを犯してしまいそうな人がいたら、傍観せず、止めることだ。その行動一つで、相手の将来を変えられるという学びを、この作文を書くにあたって得ることが出来た。

社会は、一人一人が意識を改めることで変化させられる。だから、私は以上のことを日々心がけ、犯罪や非行を減らしていきたい。これが、社会を明るくすることに繋がると信じている。